

和歌山北高等学校西校舎

実施日時	① 令和元年10月 9日(水) 9:55~10:45 ② 10月10日(木) 11:55~12:45 ③ 11月 5日(火) 9:55~10:15
参加者	① 北高校西校舎 生徒415名、教職員40名 さくら支援学校 生徒100名、教職員200名 計755名 ② 1年生生徒133名、教職員8名 計141名 ③ 北高校西校舎生徒415名、教職員40名 計455名
実施内容	① さくら支援学校との合同避難訓練および消火訓練 ② 津波防災啓発DVD鑑賞(防災学習) ③ 「津波防災の日」シェイクアウト訓練

ねらい

- ① 火災や地震の非常時に備えて避難経路の確認と、防災の意識を高める。
- ② 講演「想定外の生き抜く力 大津波を生き抜いた釜石市の子どもたち その主体的行動に学ぶ」のDVD映像を鑑賞して、地震や津波から自らの命を守るための知識・判断力・行動力を身につけて「自分の命は自分で守る」という姿勢を育む。
- ③ 地震・津波に関する訓練の実施を通じて、地震、津波に対する防災意識の高揚を図る。

主なプログラム

- ① 1. 緊急地震速報の放送 2. 避難訓練 3. 消火訓練 4. 消防署長による講話
- ② 1. DVD鑑賞 2. DVDの感想記入 3. 津波への正しい備え方や行動の確認
- ③ 1. 情報伝達訓練 2. シェイクアウト訓練 3. 避難経路の確認

概要

①



3



4



②

2



3



③

2 (大地震時の行動)

(資料 安全行動の図)

安全行動の1-2-3



- ①ドロップ:姿勢を低く!
- ②カバー:体・頭を守って!
- ③ホールド・オン:揺れが収まるまでじっとして!



(資料 各場所での安全行動)



参加者感想文

- ① 実際に火災が起こったという緊張感を持って参加することができた。さくら支援学校の生徒さんたちとともに大勢の人が行動することになるので、先生の指示したことは必ずしっかり聞いて、周りに迷惑のかけることのないようにしなければならないと感じた。
- ② ・自分が助けられるのでなくて、他の人を助けていけるようにしたい。
・「自分の命は自分で守る。」地震が起こったときは自分の命を守るのは自分しかいないことを考えさせられました。周りの人たちに声をかけていくことも大切だと思った。
・「自分の命は自分で守る。」率先して行動することを1人ひとりがすることによって防災になり、被害が少なくすることができると思いました。
- ③ 本当に地震が起こったという想定ですぐ机の下に隠れた。いつどこで起こるかもしれないことなので、多くの機会に注意する意識を持っておきたいと思った。

成果と課題

- ① 【成果】速やかに第1避難場所の第2グラウンドに集合することができた。さくら支援学校の生徒たちと水消火器を使用して、合同で消火訓練をできたことが貴重な経験となったことが成果である。
【課題】さくら支援学校の生徒の避難に対しての支援をどのようにするか、事前の打ち合わせを含めてどのようにしていくかが今後の課題である。
- ② 【成果】生徒たちは真剣にDVDの鑑賞をしていた。講演をしていた片田教授の説明がわかりやすかった。感想を見ていて、前向きな意見が多くあったことが成果といえる。
【課題】講演の内容を実際に生徒たちが協力して行動することができるかが課題である。
- ③ 【成果】教科担当者の協力もあって、真面目に大半の生徒たちが大地震発生時での、しかるべき行動をとれたことが成果となった。
【課題】生徒たちが学校だけでなく、実際に一般の公共施設等で大地震などの災害に遭遇した時に訓練のように対応ができるかが課題である。